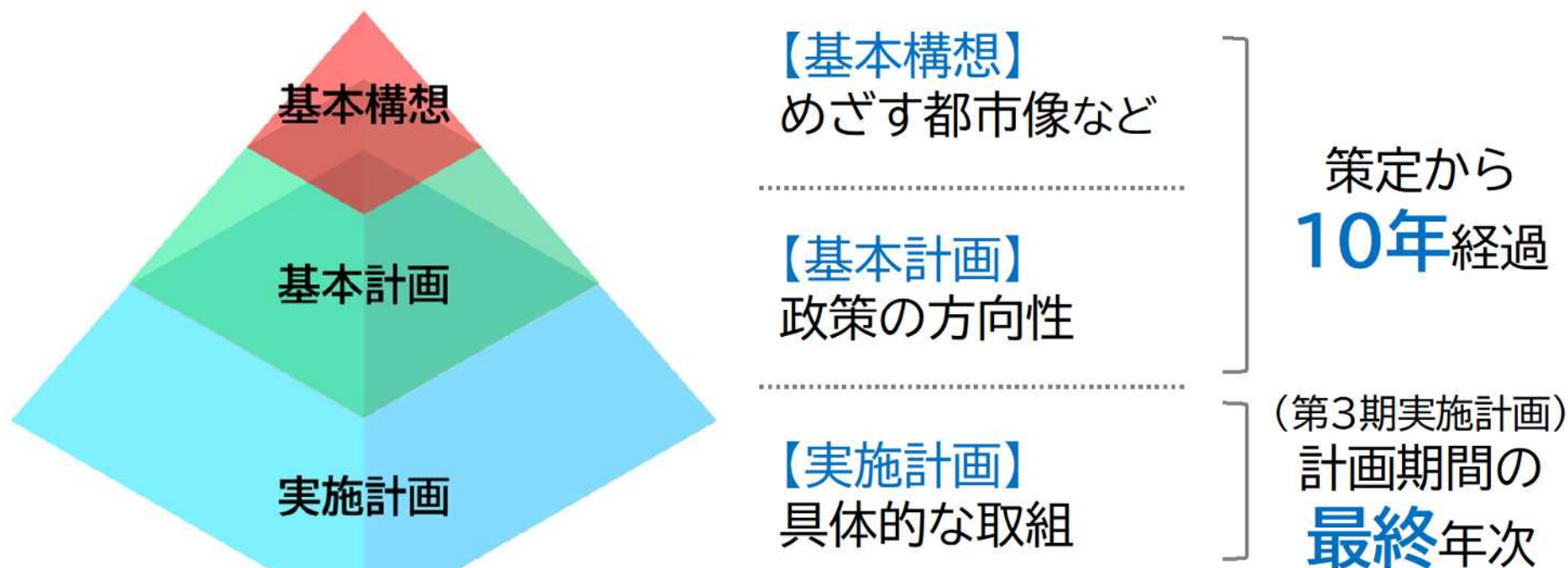
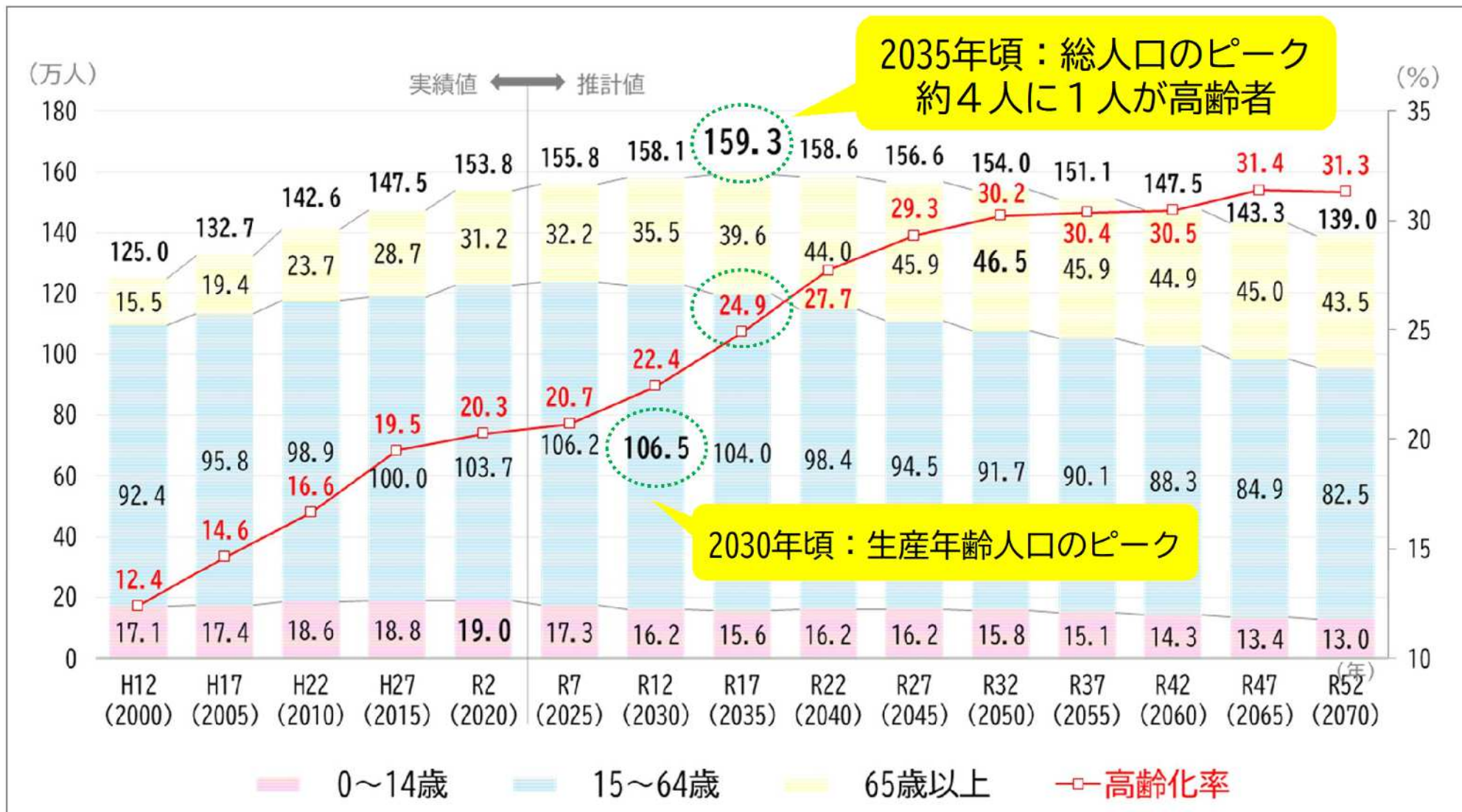


総合計画の改定



改定の背景／人口動態

- 近い将来、急速な高齢化の進行と人口減少への転換が見込まれる



川崎市を取り巻く環境変化と主な課題等



少子高齢化・人口減少の進行



気候変動の深刻化



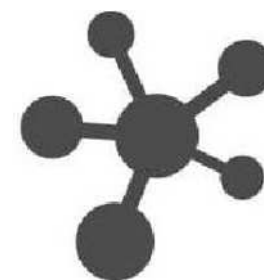
自然災害リスクの増大



都市インフラの老朽化と有効活用



未来志向の産業振興

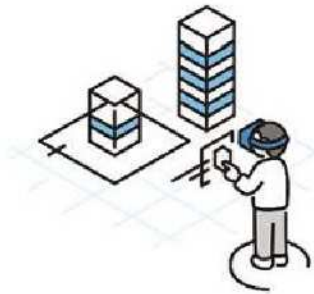


DX(デジタルトランスフォーメーション)の進展



計画推進に向けた考え方

次の考え方を踏まえながら、総合計画を着実に推進します。



デジタル技術の活用

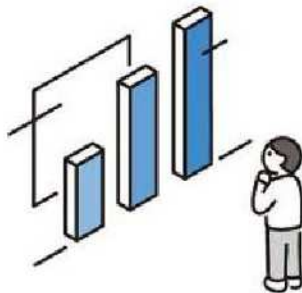


多様な主体との共創



川崎市は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

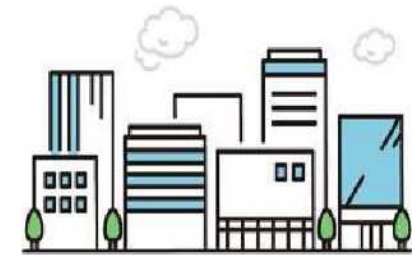
SDGsを踏まえた政策の推進



データを活用した政策形成



議論を軸とした行政運営



新たな大都市制度の創設

これまでの取組

➤ 水道・下水道施設の耐震化・老朽化対策の推進

水道施設の耐震化状況(令和5年度末)

指標	川崎市	全国平均
基幹管路の耐震適合率	88.1%	43.3%
浄水施設の耐震化率	100.0%	44.5%
配水池の耐震化率	99.1% ^{注)}	64.7%

注)令和6年度末において100%を達成



水道管路の更新・耐震化工事

下水道施設の耐震化状況(令和6年度末)

指標	川崎市※1	(参考) 全国平均※
水処理センター(揚水機能)の耐震化率	100%	40%
ポンプ場(汚水揚水機能)の耐震化率	63.6%	40%
重要な管きよの耐震化率	88.4%	57%

※国土交通白書2024に示される指標の実績値

指標	川崎市※
管きよ再整備率 (管きよ再整備重点地域)	39.0%

管きよの耐震化(左:耐震化前、右:耐震化後)



現状と今後の展開

災害用
マンホールトイレ：
31か所/155か所
(20.0%)
まで整備完了



災害の影響を受けにくく、持続的・衛生的に使える

マンホールトイレを
全ての指定避難所に整備

令和11(2029)年度までに124箇所以上
令和13(2031)年度までに全箇所設置予定

現状と今後の展開



避難所にもなる
体育館の空調：
7棟/178棟
(3.9%)

まで整備完了
※令和7年度末時点

全市立学校体育館等への

空調導入を

スピード感をもって推進

(令和11(2029)年度 全校設置予定)

(2) 地域包括ケアシステムの進化

地域包括ケアシステムとは

国では高齢者を対象としていますが、
川崎市では**全世代**を対象に取り組を進めています！

子どもから高齢者までの全ての地域住民を対象に、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、「医療・介護・予防・住まい・生活支援」が一体的に提供されるシステム

【基本理念】 川崎らしい都市型の地域包括ケアシステムの構築による**誰もが**住み慣れた地域や自らが望む場で安心して暮らし続けることができる地域の実現

【視点①】
地域における「ケア」
への理解の共有と
セルフケア意識の醸成

【視点②】
安心して暮らせる
「住まいと住まい方」
の実現

【視点③】
多様な主体の活躍
による、よりよいケア
の実現

【視点④】
多職種が連携した**一体的な
ケアの提供**による、自立した
生活と尊厳の保持の実現

【視点⑤】
地域全体における**目標の共有**
と地域包括ケアをマネジメント
するための仕組みの構築



具体的な取組例

健康づくり

健康ウォーキング



市民の自発的な健康づくりの
習慣化を促進する

専門多職種連携

医療介護連携



医療や介護の専門職が連携して
地域の生活を支える仕組みをつくる

つながりづくり

一人暮らし高齢者会食会



身近な地域における見守り・支え
合いの取組を進める

地域子育て支援センターの様子



地域全体で子育てを応援する環
境づくりを進める

保健・医療・福祉分野だけでなく、まちづくり、教育、経済分野などあらゆる分野が連携したシステムづくりを進めています。

(2) 地域包括ケアシステムの進化

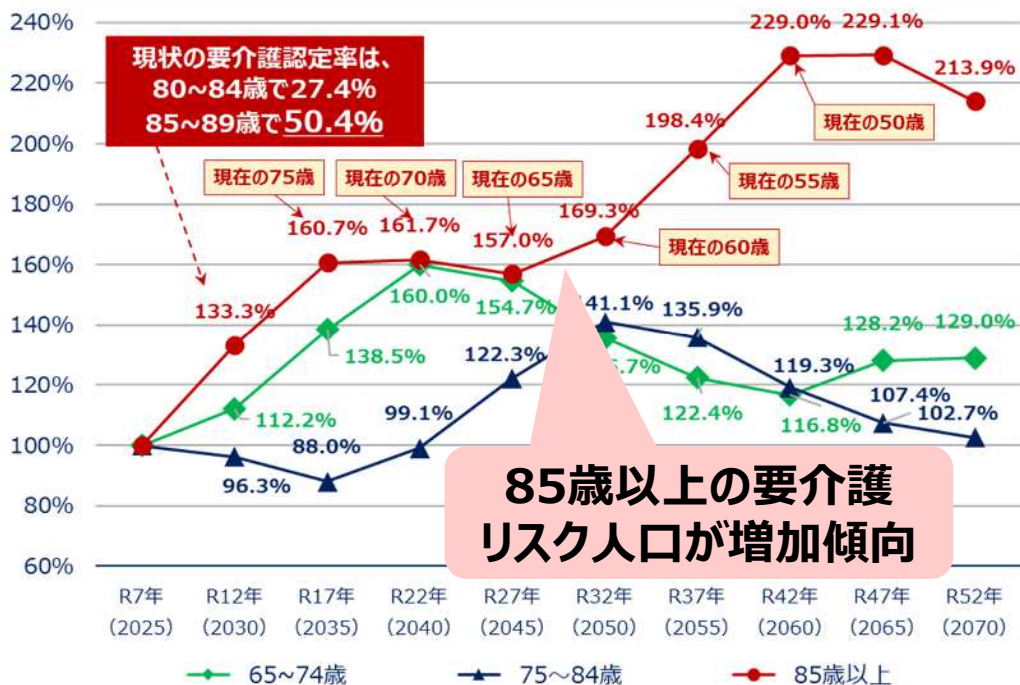
今後の展開

さらなる「少子高齢化」、「担い手不足」、「医療・介護需要の増加」、「認知症の方や頼りになる身寄りのいない高齢者の増加」を見据え、

- ①「**予防的視点を重視した取組**」、
 - ②「**つながりづくりに関する取組**」、
 - ③「**民間事業者等を含む多様な主体と連携した取組**」
- を重点的に進め、「地域包括ケアシステム」を進化させます。

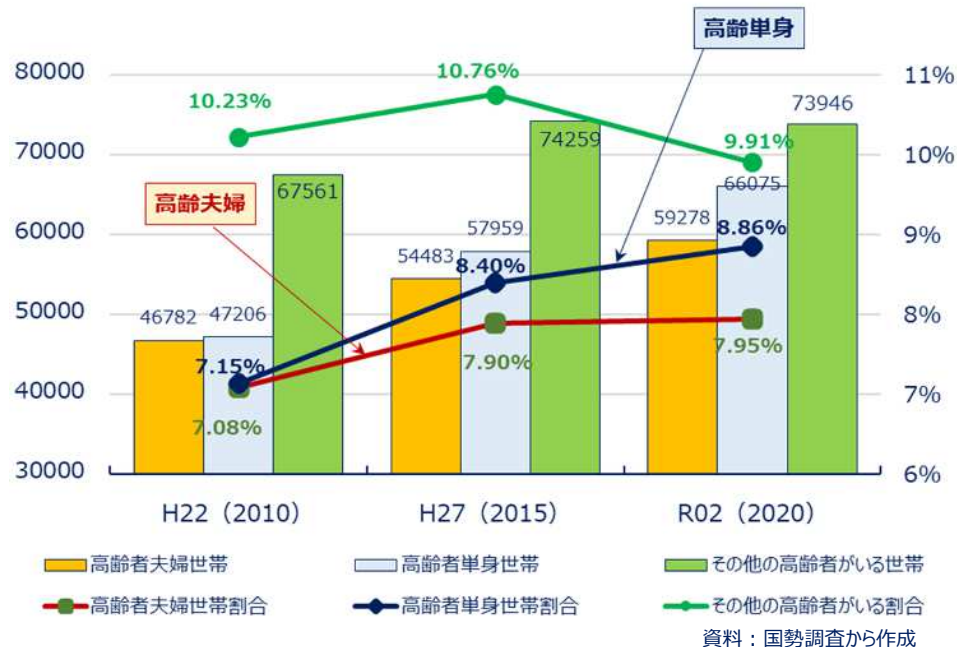
高齢者のみ世帯が
増加傾向

川崎市の高齢者年齢区分別増減推移



資料：川崎市総合計画改定に向けた将来人口推計（令和7（2025）年5月）から作成

川崎市の高齢者世帯の状況



(3) 等々力緑地再編整備

取組の背景と今後の取組

- ✓ 約43.5haの広大な緑地帯!
 - ✓ 都内からのアクセス良好!
 - ✓ 多彩なスポーツ施設と文化・自然を併せ持つ点で、都内近郊でも有数の非常に魅力的な緑地。
- ➔
- ✓ 緑地内施設の老朽化
 - ✓ 防災対策の充実
(災害時の活動拠点)



魅力向上、施設の老朽化や防災対策の充実のため再編整備を行います!

(3) 等々力緑地再編整備

これからの展開

みんなのはらっぱ

令和10年度完成予定



新とどろきアリーナ

令和10年度完成予定



球技専用スタジアム

令和11年度完成予定



こもれびの森

令和12年度完成予定



これからの展開

「等々力をみんなが輝ける場所に」



PFI制度を活用し、民間活力により、
日常的に賑わう空間となるよう取組を推進中！

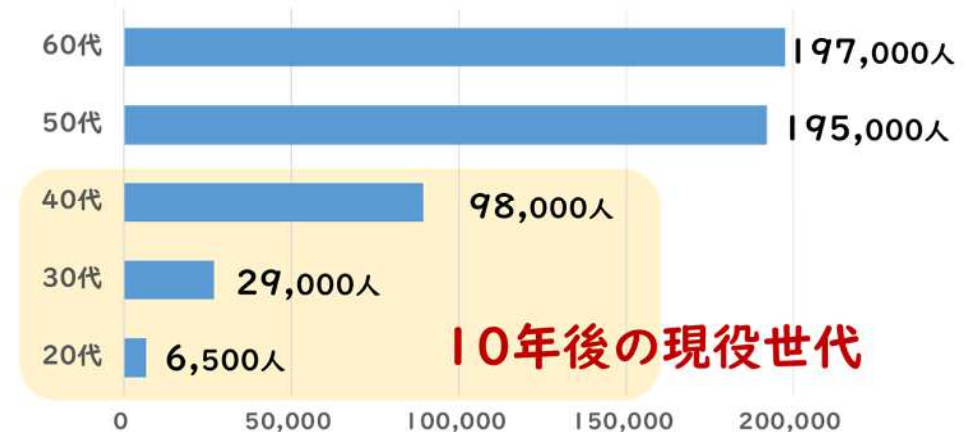
(4) 自動運転バスの導入・展開

取組の背景

- ・ 運転手不足の深刻化を背景に、川崎市でも**路線バスの便数は年々減少**
- ・ **10年後には、現状から更に3割程度運転手が減少**する見込み



路線バス運転手(大型2種免許保有者)の年齢構成



市内1日当りのバス便数: **2,500便**
(約**20%**) 減少

※平成30年度(ピーク時)と令和6年度の比較、人口は当該年度の4月1日時点
※便数は4事業者合計値(川崎市バス、小田急バス、東急バス、川崎鶴見臨港バス)

R5運転免許統計
20~40代の免許保有者は全体の3割程度

これまでの取組

- 多くの事業パートナーとともに実証実験を開始



TIER IV



交通量の多い環境でも
高い自動運転率

自動運転率: **90.1%** (令和7年度)



(4) 自動運転バスの導入・展開

直近の取組

全国初

自動運転バス2台同時運行



全国初

1人で2台のバスを遠隔監視



全国初

Minibus 2.0では、運賃有料で運行(着席保証料を設定)

羽田連絡線



川崎病院線



自動運転レベル2の実証実験を実施

今後の展開

令和9年度 (目標)

- 運転手が乗らない自動運転バスを実現

将来展望

2路線で
自動運転を実現

- 羽田連絡線
- 川崎病院線

他地域への導入
展開に向け
市バスでも取組
を推進

得られた成果を
市全域へ

全国13箇所の1つとして、デジタル庁の自動運転の社会実装を目指す「**先行的事業化地域**」に選定（令和8年3月6日）されました！

